

漁業情報利用開発試験（ウオダス漁海況速報）

十三 邦昭・仲村 俊毅・中川 賢三・菊谷 尚久

調 査 目 的

漁況、海況に関するリアルタイムの情報を漁業者等に提供する試験を実施し、情報の利用を促進することにより、漁業生産の安定もしくは拡大を図り、以って本県水産業の経営安定に資する。

実施概要

1. 発行間隔 5日毎（周年）
2. 情報項目 (1)海況・①衛星画像、②沖合の海況、③沿岸定置水温
(2)漁況・①県内主要12港の魚種別水揚げ状況 ②県内漁況 ③スルメイカ、アカイカ
情報
(3)その他・①試験船調査結果 ②漁況、海況のトピックス ③サカナの生態豆知識
④漁海況長期予報 ⑤主要魚種累積漁獲量 ⑥流勢指標 ⑦漁場図
⑧スルメイカ短期予報
3. 対象魚種（15種）
(1)スルメイカ (2)アカイカ (3)ヤリイカ (4)ブリ (5)マグロ (6)イワシ (7)サバ (8)タイ (9)
サケ (10)サクラマス (11)ウスメバル (12)イカナゴ (13)マダラ (14)ハタハタ (15)アブラツノザメ
4. 対象漁業および水域
(1)定置網 (2)釣 (3)延縄 (4)刺網 (5)底曳網 (6)旋網及びその他の沿岸漁業で、対象水域は本
県漁船の出漁海域

データ収集方法

1. 毎日収集 (1)試験船調査結果（無線－3隻）
(2)標本船の操業データ（無線－イカ釣24隻）
2. 3日間隔 (1)衛星画像（GJSCからFAX）
3. 5日間隔 (1)県内漁況（電話－12漁協）
(2)県外漁況（電話－県外水試及び県外漁協5～6ヶ所）
(3)沿岸定置水温（電話－県内12ヶ所）
4. 不定期 (1)その他の漁海況データ

データ処理方法

1. 衛星画像
パソコン通信により画像入手、カラープリンターにより処理し、等温線図作成
2. 沖合の海況

- (1) 各県水試観測データから水温分布図作成
- (2) GJSC 漁海況速報の表面水温分布を利用
- (3) 衛星画像水温を利用
3. 沿岸定置水温
現況値、前年差、平年差
4. 県内漁況
日別水揚を集計し、5日毎に漁協別、漁業別、魚種別に表示、月1回累積漁獲量を掲載（4年間分について）
5. 県外漁況
日別水揚を5日毎に集計
6. その他
試験船、標本船の操業データを加工
漁業者への提供方法
郵送主体であるが、ファックスでも送信している。（郵送145ヶ所、ファックス10ヶ所、直接配布6ヶ所、切手受領2ヶ所）

情報提供実績

昭和62年度中に漁業者などに提供した情報は、表1のとおりである。

表1 情報項目と速報（138～207号）に掲載した回数

情報区分	情報項目	回数	比率
海況 (定期情報)	①人工衛星情報	18回	26%
	②表面水温	51	73
	③下層水温	6	9
	④定置水温	70	100
漁況 (定期情報)	①県内水揚情報	70	100
	②県外水揚情報（スルメイカ、アカイカ）	55	79
	③ “ ” （定置、その他）	21	30
	④試験船調査結果	11	16
話題その他 (不定期)	①漁海況トピックス	15	21
	②魚生態豆知識	11	16
	③漁海況長期予報	6	9
	④主要魚種累積漁獲量とその過去数年との比較	22	31
	⑤流勢指標（平年比、過去3ヶ年との比較）	8	11
	⑥漁場図	10	14
	⑦短期予報	13	19

漁業者からの要望

3ケ年間、ウオダス漁海況速報を実施してきたが、内容をどのようにしたら漁業者に最も効果的か、4～5人のイカ釣船頭から聞き取り調査を行ったところ、次の要望が出された。

- ① 漁場図をできるだけ多く、前年と対比しながらのせてほしい。また、漁場図に等温線をのせるよう努力してほしい。
- ② 担当者の感覚でもよいから、より多く、短期予測を出してほしい。

問題点および今後の課題

イカ釣漁業だけを考えた場合には、標本船からの情報が、より迅速に入ってくれば、漁場図の問題は解決される。また、等温線についても漁業情報サービスセンターの等温線図と漁場図とのすり合わせにより、のせることは可能である。しかし、精度については問題があろう。

また、短期予測についても、大雑把には可能である。

しかし、スルメイカ以外の魚種を考えた場合には、問題が多すぎ、基本的には前年述べた問題点がそのまま残っている状態である。

この試験事業もあと一年で終ることになっているが、次年度中に再度、漁業者ならびに県内関係団体にアンケート調査を行うとともに、今後の対応について、県ならびに関係団体の代表などで構成される検討委員会で討議されることになっている。